

(様式第10)

国循発総第 24100201 号

令和 6 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿 開設者名 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
理事長 大津 欣也
(押印省略)

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号
氏名	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

3 所在の場所

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6番1号
電話(06) 6170 - 1070

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
○	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有				
内科と組み合わせた診療科名等					
○	1呼吸器内科	2消化器内科	○	3循環器内科	4腎臓内科
	5神経内科	6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科
	9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科
診療実績					

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科		16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	循環器リハビリテーション科	2	病理診断科	3	小児循環器内科	4	小児心臓外科	5	腎臓内科・人工透析内科
6	糖尿病・脂質代謝内科	7	循環器救急科	8	移植外科	9	移植内科	10	心臓血管内科
11	脳血管内科	12	脳神経内科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
				550	550	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	169	145	282.3
歯科医師	2	1	2.8
薬剤師	36	11	42.7
保健師	1	0	1
助産師	27	2	28.6
看護師	679	11	687.2
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	10	3	12.4

職種	員数
看護補助者	18
理学療法士	26
作業療法士	6
視能訓練士	1
義肢装具士	0
臨床工学士	29
栄養士	1
歯科技工士	0
診療放射線技師	48

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	71
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	6	
その他の技術員	27	
事務職員	184	
その他の職員	457	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	52	眼科専門医	0
外科専門医	14	耳鼻咽喉科専門医	0
精神科専門医	1	放射線科専門医	3
小児科専門医	14	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	0	整形外科専門医	0
泌尿器科専門医	0	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	7	救急科専門医	5
		合計	120

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (飯原 弘二) 任年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成30年4月より平成31年3月まで九州大学病院医療機器安全管理専門委員会委員長として医療安全管理者の業務を経験している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	432.6 人	0 人	432.6 人
1日当たり平均外来患者数	448.6 人	28.7 人	477.3 人
1日当たり平均調剤数	2692.9		剤
必要医師数	42.625		人
必要歯科医師数	1.435		人
必要薬剤師数	192		人
必要(准)看護師数	34		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	877.47 m ²	鉄筋コンクリート	38 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	81.14 m ²	病床数	3 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	48.07 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	396.08 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動臨床検査システム、尿分析装置		
細菌検査室	173.95 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	PCR検査システム、パルスフィールド、電気泳動システム		
病理検査室	174.85 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電気泳動装置、自動染色装置		
病理解剖室	47.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電子顕微鏡、超低温フリーザー		
研究室	192.16 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置		
講義室	691.72 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3 室	收容定員	504 人
図書室	59.41 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	10000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	92.5 %	逆紹介率	153.2 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	7679 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17298 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2769 人	
	D: 初診の患者の数	11289 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院		医療安全管理に関する 識見を有する者	無	1
岡田 健次	神戸大学	○	医療安全管理に関する 識見を有する者	無	1
國子 克雄	心を守る会(患者代表)		医療を受ける者の代表	無	2
西村 邦宏	国立循環器病研究セン ター予防医学・疫学情 報部長		医療安全部外の立場か らの監査	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重度三尖弁閉鎖不全を有する患者を対象としたEWJ-202における経カテーテル三尖弁置換	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 内科的治療を実施しているにもかかわらず、重度以上の三尖弁閉鎖不全を有する患者に対して、三尖弁逆流の軽減あるいは消失を目的にEWJ-202を用いて軽カテーテルでの三尖弁置換を行う。			
医療技術名	IASDシステムIIによる心不全患者における上昇した左心房圧の低減	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 左室駆出率が保たれた、または中程度の心不全患者において、標準的なカテーテル法によって心房中隔にインプラントを留置し、永久的にシャントを形成することで左房→右房の血流を実現し、左房圧を低減することで心不全症状の軽減やQOLの改善をはかる。			
医療技術名	肺高血圧症に伴う重症右心不全患者に対する一酸化窒素吸入療法の有効性と安全性に関する単施設無作為化比較試験	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 肺動脈性肺高血圧症 (PAH) ※又は慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) ※に伴う重度右心不全の治療として、肺血管拡張剤「アイノフロー吸入用 800ppm」を吸入し、肺高血圧症の治療効果と安全性を従来治療と比較する			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	46

高度の医療の提供の実績等

別紙② 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	15
2	筋萎縮性側索硬化症	0	57	特発性拡張型心筋症	1482
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	729
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	34
5	進行性核上性麻痺	5	60	再生不良性貧血	6
6	パーキンソン病	239	61	自己免疫性溶血性貧血	12
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	22
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	15	66	IgA 腎症	86
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	58
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	11	68	黄色靱帯骨化症	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	2	69	後縦靱帯骨化症	8
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	4
17	多系統萎縮症	2	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	12	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	22	74	下垂体性PRL分泌亢進症	27
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	591	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	15
23	プリオン病	6	78	下垂体前葉機能低下症	30
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	23
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	3
28	全身性アミロイドーシス	31	83	アジソン病	16
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	62
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	128
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	564
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	36
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	454
34	神経線維腫症	4	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	1	90	網膜色素変性症	11
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	12
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	4
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	0
40	高安動脈炎	179	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	13	96	クローン病	5
42	結節性多発動脈炎	1	97	潰瘍性大腸炎	59
43	顕微鏡的多発血管炎	5	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	25	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	73	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	94	104	コステロ症候群	1
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	20	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	20	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	21	107	若年性特発性関節炎	2
53	シェーグレン症候群	89	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	3	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績等

別紙② 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	31	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	4	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	9	167	マルファン症候群	364
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	37
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	9
122	脳表ヘモジデリン沈着症	5	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	2
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	98	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	4	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	3
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	1
136	片側巨脳症	1	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	3	188	多脾症候群	32
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	81
140	ドラベ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	1	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	3
145	ウエスト症候群	6	195	ヌーナン症候群	13
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	20
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	1
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	15
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	158
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	224
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	221

高度の医療の提供の実績等

別紙② 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	70	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	117	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	247	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	12	262	原発性高カイロミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	678	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	351	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	91	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	19	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	7	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	12	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	3	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	2
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	2	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	15	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュブルング病(全結腸型又は小腸型)	3
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	5
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	5
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	37
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	0

高度の医療の提供の実績等

別紙② 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	2	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	3	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	17	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	73	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
314	左肺動脈右肺動脈起始症	1	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	4	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	6
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	2
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	6
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
			339	MECP2重複症候群	0
			340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
			341	TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

取扱疾患件数	154
患者数計	8,644

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・後発医薬品使用体制加算1
・医療DX推進体制整備加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・データ提出加算2のイ
・歯科外来診療感染対策加算4	・入退院支援加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟7対1	・認知症ケア加算1
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算2	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算2	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料1
・看護職員夜間配置加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・療養環境加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2
・医療安全対策加算1	・入院時食事療養/生活療養(Ⅰ)
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・重症患者初期支援充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩等管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・術後疼痛管理チーム加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・国際標準検査管理加算
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・胎児心エコー法
・婦人科特定疾患治療管理料	・ヘッドアップティルト試験
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・脳波検査判断料1
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・神経学的検査
・ニコチン依存症管理料	・口腔細菌定量検査
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・画像診断管理加算1
・外来排尿自立指導料	・画像診断管理加算2
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・地域連携診療計画加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・冠動脈CT撮影加算
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・心臓MRI撮影加算
・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	・小児鎮静下MRI撮影加算
・遺伝学的検査の注2に規定する施設基準	・無菌製剤処理料
・先天性代謝異常症検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・検体検査管理加算(Ⅱ)	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・両室ペースティング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペースティング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・人工腎臓	・両室ペースティング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースティング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・導入期加算1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・補助人工心臓
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・小児補助人工心臓
・口腔粘膜処置	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・同種心移植術
・緊急穿頭血腫除去術	・同種心肺移植術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・経皮的下肢動脈形成術
・胸腔鏡下弁形成術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外式膜型人工肺管理料
・胸腔鏡下弁置換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・胸腔鏡下弁置換術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・再製造単回使用医療機器使用加算
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・輸血管管理料 I
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・同種クリオプレシピテート作製術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・凍結保存同種組織加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・レーザー機器加算
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・麻酔管理料(I)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・麻酔管理料(II)
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術及(心筋リードを用いるもの)	・周術期薬剤管理加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規血栓溶解薬テネクテプラーゼの脳梗塞急性期再灌流療法への臨床応用を目指した研究	豊田 一則	病院	46,500,000	補 委 日本医療研究開発機構
肺動脈性肺高血圧症の重症化の鍵となる炎症関連転写因子を標的とした革新的治療法・診断法の開発	中岡 良和	血管生理学部	24,700,000	補 委 日本医療研究開発機構
チトクロムCオキシダーゼを標的としたミトコンドリア病の新規治療薬開発	新谷 泰範	分子薬理部	24,700,000	補 委 日本医療研究開発機構
皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症(CADASIL)患者を対象としたアドレノメデュリン静注療法による安全性および有効性に関する多施設共同単群試験	猪原 匡史	脳神経内科	109,200,000	補 委 日本医療研究開発機構
肥大型心筋症患者における診療の実態調査および突然死／拡張相への移行に関する新規予測プログラムの開発とその検証	泉 知里	心不全・移植部門	13,000,000	補 委 日本医療研究開発機構
慢性腎臓病を合併した冠動脈疾患ベリハイリスク患者の心血管イベント抑制を目的とした冠動脈MRプラークイメージングの有効性を検証する多施設前向き無作為化対照試験	野口 暉夫	病院	12,973,600	補 委 日本医療研究開発機構
肺高血圧症に伴う重症右心不全に対する一酸化窒素(アイノフロー®)吸入治療に関する研究	大郷 剛	肺循環科	51,341,176	補 委 日本医療研究開発機構
急性心筋梗塞や他臓器虚血の原因となる特発性冠動脈解離の診断基準策定・診療実態ならびに予後についての臨床エビデンスを創出する研究	片岡 有	心臓血管内科	5,589,331	補 委 日本医療研究開発機構
日本全地域で心不全診療連携を最適化するAI実装DtODシステムの開発と実用化	朔 啓太	循環動態制御部	49,390,250	補 委 日本医療研究開発機構
迷走神経刺激心筋保護カテーテル(JOHAKU)の世界初医師主導治験と実用化	朔 啓太	循環動態制御部	43,970,836	補 委 日本医療研究開発機構
腸内細菌叢に焦点を当てた肺動脈性肺高血圧症に対する革新的な治療法・診断法の開発	中岡 良和	血管生理学部	34,687,250	補 委 日本医療研究開発機構

抗インターロイキン-6受容体抗体のドラッグリポジショニングで心筋炎症を抑制する、周産期心筋症の新規治療法の開発と治験の準備	神谷 千津子	産婦人科	80,164,500	補 委	日本医療研究開発機構
炎症性サイトカインmRNAの分解・安定化制御を介した肺高血圧症の病態形成制御機構の解明	中岡 良和	血管生理学部	21,450,000	補 委	日本医療研究開発機構
女性のライフサイクルにおけるイベント特有の病態が脳卒中発症における性差に与える影響とそれを用いた脳卒中発症を予測するスコアを既存のビッグデータを用いて開発する研究	吉松 淳	産婦人科	10,400,000	補 委	日本医療研究開発機構
薬剤耐性淋菌・緑膿菌に有効な新規抗菌剤の開発	新谷 泰範	分子薬理部	68,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
KLF1-mRNA医薬の開発による心筋再生誘導	菊地 和	心臓再生制御部	65,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
細胞外マトリクスを介した血管リモデリング機構の解明と加齢変化の解析	山城 義人	先端医療技術開発部	9,750,000	補 委	日本医療研究開発機構
細胞外マトリクスを介した血管リモデリング機構の解明と加齢変化の解析	山城 義人	先端医療技術開発部	72,631,000	補 委	日本医療研究開発機構
生体機能を最適化する機構としての老化の再定義	森 雅樹	血管生理学部	7,129,001	補 委	日本医療研究開発機構
脳卒中超急性期臨床試験における適切な同意手続きの確立に関する研究	福田 真弓	データサイエンス部	18,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
肺静脈閉塞症の鍵となる炎症性サイトカインを標的とした新規治療法の開発	中岡 良和	血管生理学部	26,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
急性期脳出血への新規止血治療開発のための研究者主導国際臨床試験	古賀 政利	脳血管内科	39,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
遺伝性拡張型心筋症に対する新規抗体医薬品開発	新谷 泰範	分子薬理部	26,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
ラミン心筋症に対する新規核酸治療薬の探索	新谷 泰範	分子薬理部	11,825,000	補 委	日本医療研究開発機構
高安動脈炎における血管合併症バイオマーカーの開発に向けたエビデンス創出研究	中岡 良和	血管生理学部	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構

心臓サルコイドーシス患者における診療の実態調査、および治療不応例・再発例に関する新規予測プログラムの開発と前向きレジストリによる検証	泉 知里	心不全・移植部門	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
希少難病に対する機能喪失型バリエーション評価に基づく遺伝子治療ターゲット創出システムの構築	朝野 仁裕	ゲノム医療支援部	26,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
AI技術を使用した未破裂脳動脈瘤増大破裂予測システムの構築と実用化を目指した多施設共同研究	片岡 大治	脳神経外科	19,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
非閉塞性冠動脈疾患(INOCA)患者におけるPrecision Medicine を目指した RNF213遺伝子多型保有率の検証とINOCA発症 polygenic risk score モデルの作成	野口 暉夫	病院	26,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
NAD ⁺ /SIRT1軸に着目した脳血管を標的とした血管性認知障害の治療法開発	服部 頼都	脳神経内科	13,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
冠動脈疾患に対する新規カテーテル治療後の至適抗血栓療法確立を目指したランダム化比較試験のデザイン・プロトコール作成研究	大塚 文之	冠疾患科	6,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
カテコラミン誘発多形性心室頻拍の早期診断と突然死予防に関する研究: JROAD-DPCを用いた全国調査とその後	相庭 武司	臨床検査部	7,150,000	補 委	日本医療研究開発機構
脈管系物流の破綻に伴う全身老化過程の解明	中嶋 洋行	細胞生物学部	7,800,000	補 委	日本医療研究開発機構
脳出血予防を目的とする鶏卵由来抗むし歯菌IgY抗体含有タブレットの有効性を検討する探索的臨床試験のプロトコール作成	猪原 匡史	脳神経内科	2,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
情報工学と応用生物工学を活用した心不全発症・重症化予防に向けた創薬シーズの探索	坂田 泰彦	臨床研究開発部	15,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
エネルギー代謝可視化を利用した病態モデル作出から薬効・安全性試験の支援	山本 正道	研究推進支援部	12,870,000	補 委	日本医療研究開発機構
先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の救命率の向上と生涯にわたるQOL改善のための総合的研究	大内 秀雄	特任部長	26,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
脳卒中・循環器病のEvidence-based policy makingの推進に関する研究	飯原 弘二	病院長	5,400,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
循環器救急疾患に対する救急医療現場の連携推進のための課題抽出と専門医間の連携構築を目指したガイドブックの作成	野口 暉夫	副院長	7,200,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金

循環器病のデジタルヘルスの推進に関する研究	飯原 弘二	病院長	5,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
脳卒中後の嚥下障害・てんかん・認知症・失語の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究	猪原 匡史	部長	5,000,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群とその類縁疾患の突然死予防に関する研究	相庭 武司	部長	5,500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
情報・形態イメージングによる左右非対称性形成機構の解明	望月 直樹	研究所	8,840,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子組換え動物を用いた生物種間に存在する生殖メカニズムの普遍性と特異性の解明	藤原 祥高	先端医療技術開発部	5,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血管壁の恒常性維持と病態形成におけるメカトランスダクション機序の解明	山城 義人	先端医療技術開発部	4,550,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
原因が同定されていない遺伝性不整脈患者の複雑な遺伝的背景と発症メカニズムの解明	大野 聖子	メディカルゲノムセンター	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心臓前駆細胞の発生を制御するエピジェネティック因子と転写因子のクロストーク	白井 学	創薬オミックス解析センター	5,070,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胎生期心血管形成とヒト疾患に關与するシグナル伝達系の下流因子の意義と制御機構	中川 修	病態ゲノム医学部	2,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胎生期心血管形成とヒト疾患に關与するシグナル伝達系の下流因子の意義と制御機構	中川 修	病態ゲノム医学部	3,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ミトコンドリア分解制御機構の解明と心不全創薬への応用	大津 欣也	理事長	5,850,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ブルガダ症候群の複雑形質と人種特異性の新規分子基盤を解明するマルチオミックス研究	蒔田 直昌	創薬オミックス解析センター	4,160,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋内炎症の鍵となるLSMEM2は拡張型心筋症の予後を規定するか？	新谷 泰範	分子薬理部	4,810,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
急性心筋炎に対する羊膜間葉系幹細胞を用いた抗炎症型再生医療の開発	福嶋 五月	心臓外科部	5,070,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
動圧軸受非接触回転方式遠心ポンプによる小型高性能植込型補助人工心臓の開発	西中 知博	人工臓器部	3,810,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

心室筋細胞特異的な分化運命決定および転写制御機構の解明	渡邊 裕介	心臓再生制御部	5,850,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳卒中・心臓病のCircular Healthcare Systemに関する研究	飯原 弘二	病院	5,070,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
分子疫学的研究による脳出血のリスク層別化と病態解明	高橋 篤	病態ゲノム医学部	5,720,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ビッグデータ・機械学習を用いたアブレーション治療の有効性・安全性予測モデルの作成	草野 研吾	心臓血管内科部	5,070,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
機能性ナノ分子によるマクロファージ機能変換と慢性腎臓病の治療	姜 貞勲	細胞生物学部	4,680,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ペリサイトの脳特異的形質獲得機構と、その生理的意義の解明	安藤 康史	心臓再生制御部	7,930,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
止血タンパク質の発現多様性と止血機能および止血以外の機能に関する基礎研究	小亀 浩市	分子病態部	6,890,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抗血栓薬新時代の脳卒中診療リスクベネフィット:複数大規模データベースを用いた解析	豊田 一則	病院	4,940,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
老化促進分子による加齢同期メカニズムの解明	清水 逸平	心血管老化制御部	4,940,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
膠原病性肺動脈性肺高血圧症の新しい治療法開発に向けた病態解明研究	中岡 良和	血管生理学部	7,020,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳卒中後の摂食嚥下障害とサルコペニアの評価系構築と脳-消化管-筋連関の鍵分子探索	猪原 匡史	脳神経内科部	10,400,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
MSC移植治療の機序解明:マクロファージのエフェロサイトーシス亢進と修復型転換	大谷 健太郎	分子薬理部	6,110,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
超分子MRプローブで挑む脳腫瘍微細血管形成の4次元ライブイメージング	馬原 淳	細胞生物学部	4,680,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
自発呼吸努力の大きさを中心静脈圧波形から予測する方法の開発とその有効性の評価	京極 都	集中治療科	351,751	補委	文部科学省科学研究費補助金
研究倫理コンサルテーションの質保証のための必須記録項目および記録システムの開発	會澤 久仁子	臨床研究開発部	780,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

治療抵抗性の冠動脈粥腫内石灰化形成におけるプロテアーゼ PCSK7の意義解明研究	片岡 有	心臓血管内科部	260,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
二次性MRIに対するカテーテル修復術のレスポンス同定と費用対効果分析	天木 誠	心不全・移植部門 (心不全部)	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
高安動脈炎に関連する肺高血圧症に対するIL-6阻害薬の有効性と治療指標の探索	上田 仁	肺循環科	520,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
膜リン脂質を介したpH依存性細胞応答機構の解明	迫 圭輔	細胞生物学部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心臓弁形成における力学応答性シグナル変換機構の解明	福井 一	細胞生物学部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
がん薬物療法による心筋障害の病理学的検討	畠山 金太	病理部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝性脳小血管病iPS細胞を用いた病態モデルによる創薬: 核酸医薬と既存薬再開発	山本 由美	脳神経内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳血管障害・肥満の共通基盤候補としてのRNF213遺伝子多型と機能的意義の解明	野口 倫生	予防医療部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
3000人規模コホートによる新世代CGMを用いたIGTの心血管病発症機構の解明	細田 公則	糖尿病・脂質代謝内科部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
人工知能を用いた大規模脳卒中登録研究解析による治療方針決定補助と転帰予測	吉村 壮平	脳血管内科部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胎児QT延長症候群の非侵襲的な早期診断法確立のための研究	加藤 愛章	小児循環器内科部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
周産期心筋症の病態－遺伝要因・心筋炎症・血管障害－解明研究	神谷 千津子	産婦人科部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
冠動脈疾患各種画像診断からの情報統合と深層学習を融合した革新的治療補助法の開発	浅海 泰栄	心臓血管内科部	390,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
肺高血圧症におけるgp130依存性サイトカインシグナルの役割の解明	石橋 知彦	血管生理学部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
治療抵抗性肺動脈性肺高血圧症に対する自律神経叢除神経治療に関する探索的臨床研究	大郷 剛	医療安全管理部	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

組織透明化による循環器疾患の解析—マイクロレベルの立体構造と微小環境の可視化に挑む	大郷 恵子	病理部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Elucidation of the pathology in ARVC caused by Japanese-specific DSG2 mutations using knock-in mice models: searching for	ZANKOV DimitarP	メディカルゲノムセンター	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋脱分化を特異的に誘導する新規転写因子の機能解析	小川 真仁	心臓再生制御部	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新たな生理活性ペプチドと受容体システムによる生体制御機構の解明	森 健二	心臓生理機能部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Reverse remodelingを促進させる新たなLVAD駆動方法の開発	田中 駿	人工臓器部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
V-A ECMO治療成績向上のための最適な左室後負荷軽減法の検討	藤井 政彦	人工臓器部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
神経膠腫におけるエクソソームを介した新規治療の開発	筒井 泰史	脳神経外科	410,599	補委	文部科学省科学研究費補助金
妊娠関連血栓性疾患の治療量抗凝固療法の確立と遺伝子解析に関する研究	根木 玲子	ゲノム医療支援部	650,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ゲノム解析が切り拓く心房細動の新展開	謝 珮琴	病態ゲノム医学部	390,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
都市部地域住民を対象とした、低T3症候群と心血管疾患発症・死亡に関する追跡研究	河面 恭子	予防医療部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
持久運動困難な慢性心不全入院患者に対する和温療法併用心臓リハビリテーションの効果	横田 千晶	脳血管リハビリテーション科	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
持続的な「知の良循環」を実現するための大学等アカデミアの知財に関する研究	大藤 康一郎	産学連携本部	2,210,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
抑うつと前頭前野機能への両側性刺激の効果に関する基礎的fNIRS研究	山内 美穂	脳神経内科	1,238,336	補委	文部科学省科学研究費補助金
動物初期胚の発生運命決定における転写抑制因子群のはたらき	小林 三紀	先端医療技術開発部	1,389,458	補委	文部科学省科学研究費補助金
GPR40の腸管—肝臓連関に着目したリポドーム調節解明と糖脂質代謝改善機構の研究	富田 努	臨床研究開発部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

妊娠経験の乳がん予防効果のメカニズムの解明	伊東 潤二	細胞生物学部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心血管病発症における血管壁ずり応力の意義の解明～新規内皮機能検査法を用いて	大畑 洋子	糖尿病・脂質代謝内科部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
胎児心臓MRI検査の精度向上を目的とした新たな心拍同期法および撮像技術の開発	森田 佳明	放射線部	520,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病因解明のためのFFPE標本を用いたウイルスRNA解析	黒岩 健一	小児循環器内科部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
フォンタン術後症候群の病態における腸管ディスバイオーシスの解明	大内 秀雄	小児循環器内科部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
左室駆出率の保たれた心不全患者に対する個別化治療実現のための左房機能評価の確立	泉 知里	心不全・移植部門	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
炎症シグナルによる肺動脈性肺高血圧症の発症機構解明に向けた基盤的研究	稲垣 薫克	血管生理学部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Y染色体上の遺伝子と心不全の発症・進展についての研究	佐野 宗一	心血管モザイク研究室	2,706,057	補委	文部科学省科学研究費補助金
芳香族炭化水素受容体の発現・活性化に着目した肺動脈性肺高血圧症の病態形成機序解明	水島 沙織	血管生理学部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
専門医を凌駕する動的デバイス融合に基づく急性心不全循環制御システムの開発	朔 啓太	循環動態制御部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
冠動脈不安定プラークの画像特徴量と生化学情報を融合した高精度心事故予測法の開発	野口 暉夫	病院	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血小板リガンドとSiglecの相互作用による好中球・単球の血栓形成促進機構の解明	秋山 正志	分子病態部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
腸管管腔に産生された新規ペプチド性因子によるエネルギー代謝調節機構の解明	吉田 守克	創薬オミックス解析センター	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脊髄損傷尾側における神経変性のエネルギー代謝機構による影響の解明	大西 諭一郎	研究推進支援部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新規メカノストレス因子による筋疾患への治療介入およびQOL維持への貢献	山崎 悟	分子薬理部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

コンピュータ制御と機械学習による体外式膜型人工肺ECMOの全循環管理システム開発	上村 和紀	バイオデジタルツイン研究部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
先天性心疾患における植込み型人工心臓の血行動態予測シミュレータの開発	清水 秀二	研究推進支援部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
早産児および重症呼吸障害児のための人工胎盤-人工子宮システムの開発	水野 敏秀	人工臓器部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
補助人工心臓左室脱血管の科学的検証に基づいた装着法の開発	梅木 昭秀	人工臓器部	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
呼吸循環補助装置の安全性評価に有用な心臓血管内血流シミュレータの開発	築谷 朋典	人工臓器部	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
凝固第Ⅴ因子改変体を用いた新たなプロテインSおよびプロテインC活性検査法の確立	丸山 慶子	分子病態部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心臓CTにおける時間分解能の「50ミリ秒の壁」を突破する拡張知能の開発と臨床展開	西井 達矢	放射線部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
慢性腎疾患への15O-ガスPETを用いた定量的血流、酸素代謝解析法の臨床応用	福田 哲也	放射線部	2,210,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
日本人の急性冠症候群における虚血や出血リスクの低い抗血小板療法についての研究	藤崎 智礼	心臓血管内科部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子発現情報の解析を用いた、心臓移植後拒絶反応の低侵襲評価法の開発	塚本 泰正	心不全・移植部門(移植医療部)	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋症・心不全発症におけるメカノセンサーチャネルの役割と新規治療法の開発	岩田 裕子	心臓生理機能部	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝子関連情報を用いた重症心不全の予後予測法の確立と病態解明を目指す研究	渡邊 琢也	心不全・移植部門(移植医療部)	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
空間マルチオミクス解析による急性冠症候群の発症機序解明	大塚 文之	心臓血管内科部	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ダノン病に対する新規治療薬の探索	中西 千明	心不全病態制御部	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心内膜特異的に発現するvon Willebrand因子の生理的意義と発現調節機構の解明	樋口(江浦) 由佳	分子病態部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

肺動脈性肺高血圧症における芳香族炭化水素受容体とIL-6シグナルのクロストークの解明	岡澤 慎	血管生理学部	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
心不全合併末期腎不全患者の適切なバスキュラーアクセス判断基準の確立に向けた研究	松尾 実紀	腎臓・高血圧内科部	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
心筋再生医療のための基盤研究; ヒトiPS細胞由来心筋細胞の成熟促進方法の開発	天野 恭志	再生医療センター	1,820,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
内因性テンナーゼの新たな形成経路に注目した心臓手術周術期の最適止血戦略の確立	前田 琢磨	手術部	1,170,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
人工心肺前後の脳血流変化が術後せん妄に与える影響の研究	森永 将裕	麻酔科	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
全国レジストリー研究からみた心原性ショック患者の直近10年間での死亡率の改善と課題	田原 良雄	心臓血管内科部	1,560,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
クリニカルパスの活用によるValue-Based Health Care構築に関する研究	吉原 史樹	腎臓・高血圧内科部	1,950,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
新規治療の開発における効率的な治療最適化と臨床評価のための統計的方法	朝倉 こう子	データサイエンス部	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
肺高血圧症に対する運動療法のリスク評価と新たな回復期心臓リハビリの効果検証	青木 竜男	肺循環科	1,300,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
終末糖化産物に注目した心筋梗塞患者の心不全およびフレイルの早期発症予測	三浦 弘之	心臓血管内科部	2,080,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
急性期脳卒中lateropulsion合併例に対するリハビリテーションプログラムの応用	鎌田 将星	脳血管リハビリテーション科	2,470,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
日常的な運動は心臓の柔軟性維持にどのように関与するのか？	土持 裕胤	心臓生理機能部	1,430,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
リボ核タンパクを模倣したカチオンフリーmRNA送達キャリア	大高 晋之	心臓再生制御部	1,430,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金
駆出率の保持された心不全の早期診断と病期のステージングに関する検討	神崎 秀明	心不全・移植部門 (心不全部)	2,600,000	補委	文部科学省 科学研究費 補助金

血中循環型高分子MRプローブとMRI磁場を利用した微細脳動脈瘤アブレーション技術	馬原 淳	細胞生物学部	2,210,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
核膜を場にした脂質代謝機構による核内脂性環境の調節機序の解明	森 雅樹	血管生理学部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心臓発生期のゲノム網羅的エンハンサーアトラストと心臓内領域特異的遺伝子発現制御機構	中川 修	病態ゲノム医学部	3,380,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ミトコンドリア病における病態進行過程の理解と新規治療法の開発	新谷 泰範	分子薬理部	3,250,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Utility of passive leg raising echocardiography for patients with heart failure with preserved ejection fraction	寺本 佳楠子	医学統計研究部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
循環器病に対する薬物療法認知コンピューティング支援ツールの開発と臨床応用	藤野 雅史	心臓血管内科部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Vector Flow Mappingを用いた運動負荷前後の血行動態変化の検証	天野 雅史	心不全・移植部門(心不全部)	780,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
STIM2スプライシング制御機構の解明と新規心不全治療戦略の構築	伊藤 淳平	心不全病態制御部	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
大規模保健医療情報を用いた、心血管疾患の個別化発症予測モデルの開発	金岡 幸嗣朗	情報利用促進部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
集中治療医の臨床判断を支える低侵襲循環機能モニタリング	西川 拓也	研究推進支援部	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳動脈瘤病態を形作る慢性炎症環境の成立要件としての脳血管内皮細胞間バリア機能破綻	栢原 智道	分子薬理部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ペリサイトに着目した脳梗塞超急性期の炎症惹起機構の解明	千代田 大尚	心臓再生制御部	390,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Cnm陽性S. mutansの全ゲノム配列に基づく新規治療法の開発	齊藤 聡	脳神経内科部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
コラーゲン結合蛋白産生性齧蝕原性細菌の脳微小出血発症機序と革新的治療法開発	服部 頼都	脳神経内科部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

ウィズコロナ時代の研究者主導脳卒中臨床試験における遠隔モニタリングの有用性	福田 真弓	データサイエンス部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
The Pathophysiological Factors Driving Diastolic Dysfunction of the Right Heart in Pulmonary Hypertension	ワディンガム マーク・トーマス	心臓生理機能部	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
RNF213遺伝子多型に着目した脳卒中後てんかんにおける遺伝学的病態の解明	福間 一樹	脳神経内科部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Coil in plug (CIP)法を用いた大口径母血管塞栓の至適化に向けた検討	小徳 暁生	放射線部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋ダイナミックコントラストMRI及び薬物動態解析を用いた心筋組織評価法の確立	太田 靖利	放射線部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
炭酸ガスフォームを用いた新たなX線陰性血管造影剤の開発	堀之内 宏樹	放射線部	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
性周期が及ぼす、QT延長症候性群患者における心事故リスクの変動に関する検討	島本 恵子	心臓血管内科	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
代謝物が繋ぐ肺・腸・肝連関に着目した肺高血圧症の新規病態形成機構の解明	浅野 遼太郎	肺循環科	2,210,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新規バイオマーカーを用いた脳心血管イベントの長期予後の予測指標の確立	雨宮 妃	病理部	520,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
大規模ナショナルデータベースを用いた、本邦における不整脈診療の質指標の開発	利根川 玲奈	情報利用促進部	780,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
エキシマレーザー照射による急性冠疾患患者のプラーク内脂質成分の修飾効果の解明研究	高木 健督	心臓血管内科部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
DNA構造多型同定による、不整脈原性右室心筋症の新たな遺伝的背景の解明	園田 桂子	メディカルゲノムセンター	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
拡張型心筋症に対する羊膜間葉系幹細胞を用いた新規治療法の最適化の検討	生田 亜由美	心臓外科	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
低手術リスク患者に対する経カテーテル大動脈弁置換術後の脳梗塞に関する研究	川本 尚紀	心臓外科	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

MRIから神経症状を推測する機械学習モデルの開発	吉江 智秀	脳血管内科	2,080,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
循環器病・認知症予防施策の最適化及び軽度認知障害悉皆スクリーニングのシステム開発	尾形 宗士郎	予防医学・疫学情報部	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
内皮シートのジッパーングにおけるカドヘリンの機能解析	福本 萌	細胞生物学部	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
進化的に隠されたアロステリック部位の探索方法確立と抗菌薬開発への展開	西田 優也	分子薬理部	2,470,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
急性期脳梗塞の機能予後改善のための迷走神経刺激による革新的脳保護デバイスの開発	田中 寛大	脳卒中集中治療科	3,120,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
利尿薬抵抗性を呈する急性心不全患者に対する静注のバゾプレシン受容体拮抗薬の研究	本田 怜史	心臓血管内科部	2,990,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新規介在板分子に注目した心臓限局性サルコイドーシスの病態解明研究	高橋 佑典	分子薬理部	2,340,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
末期腎不全を合併した心血管疾患ハイリスク患者における中性脂肪代謝の意義解明研究	岩井 雄大	心臓血管内科部	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋炎後の重症化、予後予測における臨床、病理学的因子と遺伝学的背景の関係	中島 健三郎	心臓血管内科部	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Elucidation of the Molecular Mechanism of Short QT Syndrome Caused by a Novel SLC4A3 Variant Using the Knock-in Zebrafish	祝 銘	メディカルゲノムセンター	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新しい刺激伝導路ペーシング手術法の確立	石橋 耕平	心臓血管内科部	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
遺伝性大動脈疾患の最適な遺伝学的評価法と新規疾患バイオマーカーの開発	柳生 剛	心臓血管内科部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
致死性不整脈発生リスクによる心臓再同期療法の個別最適化モデルの開発	上田 暢彦	心臓血管内科部	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心筋虚血とプラーク性状を加味した、新たな冠動脈圧指標:delta-FFRを用いた心予後予測	邑井 洸太	心臓血管内科部	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

iPS由来間葉系幹細胞を封入した自己組織化ペプチドハイドロゲルの心嚢内投与	甲斐沼 尚	心臓外科	2,340,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
頸動脈狭窄症における新規imaging バイオマーカーの探索	下永 皓司	脳神経外科	2,990,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
都市部在住高齢者における口腔機能と心不全の関係	前田 さおり	健診部	2,210,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
急性期脳卒中患者への看護ケア実施項目と予後・ADLの関連-大規模データでの検討	清重 映里	予防医学・疫学情報部	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脳内メカニカルストレスに着目した、運動による糖尿病改善効果の分子メカニズムの解明	崎谷 直義	細胞生物学部	2,080,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血液細胞の後天的Y染色体喪失によって心不全が進行するメカニズムの解明	佐野 宗一	心血管モザイク研究室	1,684,646	補委	文部科学省科学研究費補助金
介護施設での行動コンサルテーション実施手順の効果:BPSPD対応技能への効果もあわせて	石川 愛	精神神経科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Visualising superfine cerebrovasculature in MRI using supramolecular self-assembly	Soni Raghav	細胞生物学部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心不全治療を目指した新規ユビキノン制御機構の解明	廣瀬 健太郎	心臓生理機能部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心不全を合併する末期腎不全における腹膜透析と血液透析導入後の心機能の比較検討	松尾 実紀	腎臓・高血圧内科部	520,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Functional and pharmacological investigation on novel KCND3 variants	ビヤムバジャブ ツェレン	メディカルゲノムセンター	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
身体運動と繊毛運動による脳脊髄液・脳内間質液の流動を介する認知症・うつ抑制機構	越智 亮介	細胞生物学部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小胞輸送制御因子Arfの免疫制御を介した高安動脈炎の病態形成機構の解明	小谷 唯	血管生理学部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
分泌型線維化促進分子を標的とした治療法開発	蕭 詠庭	心血管老化制御部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

遺伝学的な心筋症病態層別化に向けた新規タンパク質機能喪失性評価手法の開発	坂橋 優治	創薬オミックス解析センター	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
心臓の長期保存と体外での評価・治療を可能とする体外機械的灌流法の研究開発	井元 和代	人工臓器部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
多機関共同研究における一括審査推進のための研究	高橋 由佳子	研究医療課	1,040,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
脊椎動物モデルに共通する受精の分子メカニズムの解明	藤原 祥高	先端医療技術開発部	5,590,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
自然炎症に起因する心不全発症進展メカニズムの解明と治療標的の同定	大宮 茂幹	心不全病態制御部	19,500,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
インプリンティング異質性の解消に細胞競合が果たす生物原理の解明	森 雅樹	血管生理学部	5,590,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
血行力学作用による心管腔組織形成の制御	福井 一	細胞生物学部	5,720,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ECMダイナミクスが統御する血管リモデリングの分子機序	山城 義人	先端医療技術開発部	31,200,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ペリサイトを起点とした脳梗塞時での炎症反応の解明	千代田 大尚	心臓再生制御部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
電子カルテの医療ビッグデータを用いた認知症診断支援AIモデルの開発と臨床応用	中奥 由里子	予防医学・疫学情報部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
大脳白質病変のトポグラフィ解析による脳卒中の予後予測	猪原 匡史	脳神経内科部	1,000,000	補委	文部科学省科学研究費補助金

計 210

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものの
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Watanabe Y, Wang Y, Tanaka Y, et al.	心臓再生制御部	Hey2 enhancer activity defines unipotent progenitors for left ventricular cardiomyocytes in juxta-cardiac field of early mouse embryo	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2023 Sep; 120: e2307658120	Original Article
2	Saito S, Suzuki K, Ohtani R, et al.	脳神経内科	Efficacy and Safety of Cilostazol in Mild Cognitive Impairment: A Randomized Clinical Trial	JAMA Network Open. 2023 Dec; 6: e2344938	Original Article
3	Waddingham MT, Sequeira V, Kuster DWD, et al.	心臓生理機能部	Geranylgeranylacetone reduces cardiomyocyte stiffness and attenuates diastolic dysfunction in a rat model of cardiometabolic syndrome	Physiological Reports. 2023 Nov; 11: e15788	Original Article
4	Sequeira V, Waddingham MT, Tsuchimochi H, et al.	心臓生理機能部	Mechano-energetic uncoupling in hypertrophic cardiomyopathy: Pathophysiological mechanisms and therapeutic opportunities	Journal of Molecular and Cellular Cardiology Plus. 2023 Jun; 4: 100036	Original Article
5	Nozawa K, Garcia TX, Kent K, et al.	先端医療技術開発部	Testis-specific serine kinase 3 is required for sperm morphogenesis and male fertility	Andrology. 2023 Jul; 11: 826-839	Original Article
6	Nozawa K, Liao Z, Satouh Y, et al.	先端医療技術開発部	Oocyte-specific Wee1-like protein kinase 2 is dispensable for fertility in mice	PLOS ONE. 2023 Aug; 18: e0289083	Original Article
7	Kataoka Y, Nicholls SJ, Puri R, et al.	冠疾患科	Sex Differences in the Density of Lipidic Plaque Materials: Insights From the REASSURE-NIRS MultiCenter Registry	Circulation: Cardiovascular Imaging. 2023 May; 16: 386-395	Original Article
8	Teramoto K, Ouwkerk W, Tay WT, et al.	医学統計研究部	Clinical Features of Heart Failure With Normal Ejection Fraction: Insights From the ASIAN-HF Registry	JACC: Asia. 2023 Aug; 3: 739-751	Original Article

9	Katasako A, Yoshikawa Y, Noguchi T, et al.	心臓血管内科部	Changes in neurological outcomes of out-of-hospital cardiac arrest during the COVID-19 pandemic in Japan: a population-based nationwide observational study	The Lancet Regional Health – Western Pacific. 2023 Jul; 36: 100771	Original Article
10	Nakao K, Dafaalla M, Nakao YM, et al.	冠疾患科	Comparison of care and outcomes for myocardial infarction by heart failure status between United Kingdom and Japan	ESC Heart Failure. 2023 Apr; 10: 1372–1384	Original Article
11	Aikawa H, Fujino M, Murai K, et al.	心臓血管内科部	In-hospital adverse events and recurrence in hospitalized patients with acute pericarditis	Journal of Cardiology. 2023 Oct; 82: 268–273	Original Article
12	Mitsui K, Fujino M, Noguchi T	心臓血管内科部	Left internal thoracic artery bypass graft	European Heart Journal. 2023 Apr; 44: 1284	Others
13	Kataoka Y, Yasuda S, Asaumi Y, et al.	冠疾患科	Long-term effects of lowering postprandial glucose level on cardiovascular outcomes in early-stage diabetic patients with coronary artery disease: 10-year post-trial follow-up analysis of the DIANA study	Journal of Diabetes and its Complications. 2023 May; 37: 108469	Original Article
14	Asaumi Y	心臓血管系集中治療科	Peripheral vein pressure as a less-invasive marker at the vulnerable phase after hospitalization of heart failure	International Journal of Cardiology. 2023 Jul; 383: 59–60	Others
15	Yoneda S, Asaumi Y, Murai K, et al.	冠疾患科	Feasibility of rotational atherectomy in patients with acute coronary syndrome: favorable in-hospital outcomes and clinical importance of complexed coronary atherosclerosis	Heart and Vessels. 2023 May; 38: 1193–1204	Original Article
16	Miura H, Shimada Y, Fukui N, et al.	冠疾患科	Disease management using home-based cardiac rehabilitation for patients with heart failure	Journal of Cardiology Cases. 2023 Jul; 28: 157–160	Case Report
17	Katasako A, Murai K, Noguchi T	心臓血管内科部	Enhanced Stent Imaging-Guided Intravascular Lithotripsy for Calcified Lesion Adjacent to Previously Implanted Stents	JACC: Cardiovascular Interventions. 2023 Sep; 16: 2173–2175	Others

18	Fujino M, Aikawa H, Noguchi T	冠疾患科	Author's reply	Journal of Cardiology. 2024 Jan; 83: 65-66	Letter
19	Nakao K, Noguchi T, Miura H, et al.	冠疾患科	Effect of Eicosapentaenoic Acid/Docosahexaenoic Acid on Coronary High- Intensity Plaques Detected Using Noncontrast T1- weighted Imaging: The AQUAMARINE EPA/DHA Randomized Study	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2024 Feb; 31: 122-134	Original Article
20	Aikawa H, Murai K, Aoki-Kamiya C, et al.	心臓血管内科部	Diagnosis and Management of Vasospastic Angina in a Young Woman Wishing to Become Pregnant	JACC: Case Reports. 2023 Dec; 27: 102051	Case Report
21	Murai K, Noguchi T	冠疾患科	Exploring alternatives to drug-eluting stents: the potential of combining drug coated balloon with bare- metal stents	Cardiovascular Diagnosis and Therapy. 2023 Oct; 13: 768-772	Others
22	Mitsui K, Takagi K, Kakuta T, et al.	心臓血管内科部	Novel percutaneous intervention technique for obstructed coronary artery after valve-in-valve transcatheter aortic valve replacement	Catheterization and Cardiovascular Interventions. 2023 Dec; 102: 1259-1262	Case Report
23	Fujisaki T, Kuno T, Iwagami M, et al.	心臓血管内科部	Net clinical benefit of dual antiplatelet therapy in elderly patients with acute coronary syndrome: A systematic review and meta-analysis	Catheterization and Cardiovascular Interventions. 2023 Nov; 102: 788-802	Review
24	Murai K, Fujino M, Iwai T, et al.	冠疾患科	Distal Radial Approach in Coronary Angiography Using a Transdermal Nitroglycerin Patch: Double-Blinded Randomized Trial	American Journal of Cardiology. 2023 Sep; 203: 325-331	Original Article
25	Arafa A, Kokubo Y, Kashima R, et al.	健診部	Fatty Liver Index and the Risk of Atrial Fibrillation in a General Japanese Population - The Suita Study -	Circulation Journal. 2023 Dec; 87: 1836- 1841	Original Article
26	Kamakura T, Ueda N, Wada M, et al.	不整脈科	Proarrhythmic Effect of Antitachycardia Pacing: Is Only the Pacing Algorithm to be Blamed?	JACC: Clinical Electrophysiology. 2023 Oct; 9: 2169- 2170	Letter

27	Kanaoka K, Nishida T, Iwanaga Y, et al.	情報利用促進部	Oral anticoagulation after atrial fibrillation catheter ablation: benefits and risks	European Heart Journal. 2024 Feb; 45: 522-534	Original Article
28	Oka S, Ueda N, Ishibashi K, et al.	不整脈科	Significance of effective cardiac resynchronization therapy pacing for clinical responses: An analysis based on the effective cardiac resynchronization therapy algorithm	Heart Rhythm. 2023 Sep; 20: 1289-1296	Original Article
29	Ueda N, Kataoka N, Miyazaki Y, et al.	不整脈科	N-terminal pro atrial natriuretic peptide as a prognostic marker of cardiac resynchronization therapy recipients	IJC Heart & Vasculature. 2023 Oct; 49: 101282	Original Article
30	Ueda N, Noda T, Kusano K, et al.	不整脈科	Use of Implantable Cardioverter-Defibrillators for Primary Prevention of Sudden Cardiac Death in Asia	JACC: Asia. 2023 Apr; 3: 335-345	Review
31	Miyamoto K	先端不整脈探索医学研究部	Cryoablation: Nitrogen or Nitrous Oxide? Balloon or Nonballoon?	JACC: Asia. 2023 Oct; 3: 817-818	Others
32	Miyazaki Y, Yamagata K, Wakamiya A, et al.	不整脈科	Adding interactive face-to-face lectures to passive lectures effectively reduces radiation exposure during atrial fibrillation ablation	Journal of Cardiology. 2023 May; 81: 464-468	Original Article
33	Kamakura T, Kamoshida J, Matsuura H, et al.	不整脈科	Abnormal Arrhythmogenic Substrate Outside the Right Ventricular Outflow Tract Detected by a Drug Challenge Test in a Patient With Brugada Syndrome	Canadian Journal of Cardiology. 2023 Nov; 39: 1620-1621	Others
34	Kamakura T, Kamoshida J, Toda K, et al.	不整脈科	Ventricular fibrillation initiated by reentry involving the Purkinje network in a patient with after myocardial infarction	HeartRhythm Case Reports. 2023 Jun; 9: 618-623	Case Report
35	Oka S, Watanabe Y, Amano M, et al.	不整脈科	Feasibility of Catheter Ablation for Batrial Tachycardia Using Multiple Catheters via an Atrial Shunt Device	Circulation Reports. 2023 Aug; 5: 367-368	Original Article

36	Kakuta T, Fukushima S, Minami K, et al.	心臓外科	Outcomes and residual gap analysis after the modified cryomaze procedure performed via right minithoracotomy versus sternotomy	JTCVS Open. 2023 May; 15: 176–187	Original Article
37	Kakuta T, Fukushima S, Minami K, et al.	心臓外科	What Is the Optimal Mitral Valve Repair for Isolated Posterior Leaflet Prolapse to Achieve Long-Term Durability?	Journal of the American Heart Association. 2023 Jun; 12: e028607	Original Article
38	Inoue Y, Matsuda H	血管外科	Will the Advanced Aging Society Produce Brand New Insight on Aortic Dissection?	Circulation Journal. 2023 Aug; 87: 1162–1163	Original Article
39	Koizumi S, Inoue Y, Shinzato K, et al.	先端医療技術開発部	Surgical outcomes of thoracic endovascular aortic repair for retrograde Stanford type a dissection	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2023 Apr; 63: ezad062	Original Article
40	Seike Y, Nishii T, Yoshida K, et al.	血管外科	Covering the intercostal artery branching of the Adamkiewicz artery during endovascular aortic repair increases the risk of spinal cord ischemia	JTCVS Open. 2024 Feb; 17: 14–22	Original Article
41	Inui R, Koge J, Tanaka K, et al.	脳血管部門	Detrimental effect of anemia after mechanical thrombectomy on functional outcome in patients with ischemic stroke	Frontiers in Neurology. 2023 Dec; 14: 1299891	Original Article
42	Wada S, Yoshimura S, Toyoda K, et al.	情報利用促進部	Characteristics and outcomes of unknown onset stroke: The Japan Stroke Data Bank	Journal of the Neurological Sciences. 2023 Oct; 453: 120798	Original Article
43	Shiozawa M, Koga M, Inoue H, et al.	脳血管内科	Risk of both intracranial hemorrhage and ischemic stroke in elderly individuals with nonvalvular atrial fibrillation taking direct oral anticoagulants compared with warfarin: Analysis of the ANAFIE registry	International Journal of Stroke. 2023 Oct; 18: 986–995	Original Article
44	Miyata T, Horiuchi T	脳血管内科	Biochemistry, molecular genetics, and clinical aspects of hereditary angioedema with and without C1 inhibitor deficiency	Allergology International. 2023 Jul; 72: 375–384	Review

45	Yoshimura S, Koga M, Okada T, et al.	脳血管内科	Thrombolysis for Acute Wake-Up and Unclear-Onset Strokes with Alteplase at 0.6 mg/kg in Clinical Practice: THAWS2 Study	Cerebrovascular Diseases. 2024 Feb; 53: 46-53	Original Article
46	Kuroda T, Tanaka T, Abe S, et al.	脳血管部門	Seizure-associated takotsubo cardiomyopathy with Alzheimer's disease: A case report	Epileptic Disorders. 2023 Dec; 25: 895-899	Original Article
47	Ishiyama H, Ihara M	脳神経内科	Uncovering the genetic architecture of paediatric moyamoya angiopathy: implications for disease pathogenesis	European Journal of Human Genetics. 2023 Jul; 31: 733-734	Others
48	Tanaka T, Gyanwali B, Tomari S	脳神経内科	Editorial: Epilepsy and dementia in stroke survivors	Frontiers in Neurology. 2023 Nov; 14: 1320031	Others
49	Arakaki Y, Yoshimoto T, Ishiyama H, et al.	脳血管部門	Preservation of Dopamine Transporters in a Patient With Micrographia Due to Cerebral Infarction: A Case Report	Journal of Movement Disorders. 2023 May; 16: 221-223	Letter
50	Hattori Y, Kakino Y, Hattori Y, et al.	脳神経内科	Long-Term Resveratrol Intake for Cognitive and Cerebral Blood Flow Impairment in Carotid Artery Stenosis/Occlusion	Journal of Stroke. 2024 Jan; 26: 64-74	Original Article
51	Ishiyama H, Tanaka T, Yoshimoto T, et al.	脳神経内科	RNF213 p.R4810K Variant Increases the Risk of Vasospastic Angina	JACC: Asia. 2023 Jun; 3: 821-823	Original Article
52	Abe S, Inoue M, Shirakawa M, et al.	脳神経内科	Computed Tomography Perfusion Parameters Predictive of Symptomatic Intracranial Hemorrhage After Mechanical Thrombectomy in Patients With Cerebral Large Vessel Occlusion	Stroke: Vascular and Interventional Neurology. 2023 Jun; 3: e000747	Original Article
53	Inui R, Yoshimoto T, Ishiyama H, et al.	脳血管部門	Cardioembolism after thoracoscopic left atrial appendage clipping in a patient on oral anticoagulation therapy	Journal of Cardiology Cases. 2023 Sep; 29: 5-6	Case Report

54	Bhaskar SMM	脳神経内科	Editorial: Digital strategies to reduce salt consumption	Frontiers in Public Health. 2023 Oct; 11: 1244216	Others
55	Yamada K, Imamura H, Ozaki S, et al.	脳神経外科	A Review of Current Flow Diverters	Journal of Neuroendovascular Therapy. 2024 Mar; 18: 59-64	Review
56	Yokouchi-Konishi T, Liu Y, Feng L	産婦人科	Progesterone receptor membrane component 2 is critical for human placental extravillous trophoblast invasion	Biology of Reproduction. 2023 Nov; 109: 759-771	Original Article
57	Tochiya M, Makino H, Tamanaha T, et al.	糖尿病・脂質代謝内科	Diabetic microvascular complications predicts non-heart failure with reduced ejection fraction in type 2 diabetes	ESC Heart Failure. 2023 Apr; 10: 1158-1169	Original Article
58	Kurashima S, Kitai T, Xanthopoulos A, et al.	心不全科	Diagnosis of cardiac sarcoidosis: histological evidence vs. imaging	Expert Review of Cardiovascular Therapy. 2023 Jul-Dec; 21: 693-702	Review
59	Amaki M, Moriwaki K, Nakai M, et al.	心不全科	Cost-effective analysis of transcatheter aortic valve replacement in patients with severe symptomatic aortic stenosis: A prospective multicenter study	Journal of Cardiology. 2024 Mar; 83: 169-176	Original Article
60	Ueda N, Ishibashi K, Noda T, et al.	不整脈科	Implications of ventricular arrhythmia after cardiac resynchronization therapy	Heart Rhythm. 2024 Feb; 21: 163-171	Original Article
61	Izumi C, Matsuyama R, Yamabe K, et al.	心不全・移植部門	In-Hospital Outcomes of Heart Failure Patients with Valvular Heart Disease: Insights from Real-World Claims Data	ClinicoEconomics and Outcomes Research. 2023 May; 15: 349-360	Original Article
62	Yoshihara F, Imazu M, Sakuma I, et al.	腎臓・高血圧内科部	DAPagliflozin for the attenuation of albuminuria in Patients with hEaRt failure and type 2 diabetes (DAPPER study): a multicentre, randomised, open-label, parallel-group, standard treatment-controlled trial	eClinicalMedicine. 2023 Dec; 66: 102334	Original Article

63	Amano M, Izumi C, Watanabe H, et al.	心不全科	Effects of Long-Term Carvedilol Therapy in Patients With ST-Segment Elevation Myocardial Infarction and Mildly Reduced Left Ventricular Ejection Fraction	American Journal of Cardiology. 2023 Jul; 199: 50-58	Original Article
64	Asase M, Watanabe T, Takegami M, et al.	移植医療部	Impact of Different Therapeutic Strategies With Left Ventricular Assist Devices on Health-Related Quality of Life During Prolonged Device-Based Support	Circulation Reports. 2023 Jun; 5: 289-297	Original Article
65	Tsukinaga A, Yoshitani K, Ozaki T, et al.	手術部	Quantitative regional cerebral blood flow measurement using near-infrared spectroscopy and indocyanine green in patients undergoing superficial temporal to middle cerebral artery bypass for moyamoya disease: a novel method using a frequency filter	Journal of Clinical Monitoring and Computing. 2023 Apr; 37: 421-429	Original Article
66	Yoshitani K, Ogata S, Kato S, et al.	輸血管理部	Effect of cerebrospinal fluid drainage pressure in descending and thoracoabdominal aortic repair: a prospective multicenter observational study	Journal of Anesthesia. 2023 Jun; 37: 408-415	Original Article
67	Shimatani T, Kyogoku M, Ito Y, et al.	集中治療科 (ICU)	Fundamental concepts and the latest evidence for esophageal pressure monitoring	Journal of Intensive Care. 2023 May; 11: 22	Review
68	Minami K, Tadokoro N, Fukushima S, et al.	集中治療科 (ICU)	Use of cardiopulmonary bypass is associated with chronic postsurgical pain among patients undergoing coronary artery bypass graft surgery: follow-up of a randomized, clinical trial	Journal of Anesthesia. 2023 Aug; 37: 555-561	Original Article
69	Hattori Y, Saito S, Nakaoku Y, et al.	脳神経内科	Taxifolin for Cognitive Preservation in Patients with Mild Cognitive Impairment or Mild Dementia	Journal of Alzheimer's Disease. 2023 May; 93: 743-754	Original Article
70	Kataoka Y, Kitahara S, Funabashi S, et al.	冠疾患科	The effect of continuous glucose monitoring-guided glycemic control on progression of coronary atherosclerosis in type 2 diabetic patients with coronary artery disease: The OPTIMAL randomized clinical trial	Journal of Diabetes and its Complications. 2023 Oct; 37: 108592	Original Article

71	Wada S, Iwanaga Y, Nakai M, et al.	情報利用促進部	Combination of coronary CT angiography, FFRCT, and risk factors in the prediction of major adverse cardiovascular events in patients suspected CAD	Clinical Cardiology. 2023 May; 46: 494–501	Original Article
72	Wada S, Iwanaga Y, Sumita Y, et al.	情報利用促進部	Satisfaction Survey for Regional Clinical Pathway for Stroke Patients in Acute and Rehabilitation Hospitals in Japan	Progress in Rehabilitation Medicine. 2023 Jul; 8: 20230021	Original Article
73	Kusano K, Yamane T, Inoue K, et al.	心臓血管内科部	The Japanese Catheter Ablation Registry (J-AB): Annual report in 2021	Journal of Arrhythmia. 2023 Sep; 39: 853–859	Original Article
74	Amemiya K, Nishihira M, Ishibashi-Ueda H, et al.	病理部	A 5-year survivor of endarterectomy for sclerosing undifferentiated intimal sarcoma of the pulmonary artery: Importance of clinical suspicion and careful histologic evaluation	Pulmonary Circulation. 2023 Oct; 13: e12315	Original Article
75	Arafa A, Kashima R, Kokubo Y	健診部	Stair climbing and the incidence of atherosclerotic cardiovascular disease: a population-based prospective cohort study	Environmental Health and Preventive Medicine. 2023 Oct; 28: 60	Original Article
76	Arafa A, Kashima R, Kokubo Y	健診部	Life satisfaction and the risk of atherosclerotic cardiovascular disease in the general Japanese population: the Suita Study	Environmental Health and Preventive Medicine. 2023 Oct; 28: 62	Original Article
77	Arafa A, Kashima R, Kokubo Y, et al.	健診部	Alcohol consumption and the risk of heart failure: the Suita Study and meta-analysis of prospective cohort studies	Environmental Health and Preventive Medicine. 2023 May; 28: 26	Original Article
78	Arafa A, Kashima R, Kokubo Y, et al.	健診部	Serum cholesterol levels and the risk of brain natriuretic peptide-diagnosed heart failure in postmenopausal women: a population-based prospective cohort study	Menopause. 2023 Aug; 30: 831–838	Original Article
79	Arafa A, Kashima R, Yasui Y, et al.	健診部	Development of new scores for atherosclerotic cardiovascular disease using specific medical examination items: the Suita Study	Environmental Health and Preventive Medicine. 2023 Oct; 28: 61	Original Article

80	Fujihara Y, Kobayashi K, Abbasi F, et al.	先端医療技術開発部	PDCL2 is essential for sperm acrosome formation and male fertility in mice	Andrology. 2023 Jul; 11: 789–798	Original Article
81	Hattori Y, Ikeda S, Matsumoto M, et al.	脳神経内科	Case Report: Postmortem brain and heart pathology unveiling the pathogenesis of coexisting acute ischemic stroke and electrocardiographic abnormality	Frontiers in Cardiovascular Medicine. 2023 Jun; 10: 1200640	Original Article
82	Imamura H, Sakai N, Sakai C, et al.	集中治療科 (NCU)	Japanese Postmarket Surveillance of Percutaneous Transluminal Angioplasty and Wingspan Stenting for Intracranial Atherosclerotic Disease	World Neurosurgery. 2023 May; 173: e48–e54	Original Article
83	Ito S, Takahama H, Asakura M, et al.	臨床研究開発部	Efficacy of azilsartan on left ventricular diastolic dysfunction compared with candesartan: J-TASTE randomized controlled trial	Scientific Reports. 2023 Aug; 13: 12517	Original Article
84	Iwai T, Yamaguchi T, Ueshima D, et al.	心臓血管系集中治療科	Differences in major limb outcomes by indication for lower extremity endovascular revascularization in patients receiving hemodialysis	Heart and Vessels. 2023 Apr; 38: 488–496	Original Article
85	Iwasa T, Urasaki A, Kakihana Y, et al.	小児循環器内科	Computational and Experimental Analyses for Pathogenicity Prediction of ACVRL1 Missense Variants in Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia	Journal of Clinical Medicine. 2023 Aug; 12: 5002	Original Article
86	Izumi C, Matsuyama R, Asaoka M, et al.	心不全・移植部門	Valvular heart disease in Japan: Characteristics and treatment of patients in acute care hospitals in 2019	Journal of Cardiology. 2023 Jul; 82: 29–34	Original Article
87	Kamada M, Yokota C, Murata S, et al.	脳血管リハビリテーション科	Dynamic changes of the direction and angle of radiographic ocular lateral deviation in patients with lateropulsion after stroke onset	Journal of Neurology. 2023 Aug; 270: 4041–4048	Original Article
88	Kanaoka K, Iwanaga Y, Nakai M, et al.	情報利用促進部	Sodium–glucose cotransporter 2 inhibitor use in early–phase acute coronary syndrome with severe heart failure	European Heart Journal – Cardiovascular Pharmacotherapy. 2023 Jul; 9: 444–452	Original Article
89	Kanaoka K, Iwanaga Y, Nakai M, et al.	情報利用促進部	Multifactorial effects of outpatient cardiac rehabilitation in patients with heart failure: a nationwide retrospective cohort study	European Journal of Preventive Cardiology. 2023 Apr; 30: 442–450	Original Article

90	Kanaoka K, Iwanaga Y, Nakai M, et al.	情報利用促進部	Clinical Research Hospital- and Patient-Level Analysis of Quality Indicators in Acute Coronary Syndrome Care: A Nationwide Database Study	Canadian Journal of Cardiology. 2023 Apr; 39: 515-523	Original Article
91	Kanaoka K, Iwanaga Y, Okada K, et al.	情報利用促進部	Validity of Diagnostic Algorithms for Cardiovascular Diseases in Japanese Health Insurance Claims	Circulation Journal. 2023 Apr; 87: 536-542	Original Article
92	Kawada T, Li MH, Nishiura A, et al.	循環動態制御部	Acute effects of empagliflozin on open-loop baroreflex function and urinary glucose excretion in rats with chronic myocardial infarction	The Journal of Physiological Sciences. 2023 Sep; 73: 20	Original Article
93	Kawada T, Yamamoto H, Yokoi A, et al.	循環動態制御部	Acute effects of empagliflozin on open-loop baroreflex function and urine glucose excretion in Goto-Kakizaki diabetic rats	The Journal of Physiological Sciences. 2023 Apr; 73: 7	Original Article
94	Le HT, Mahara A, Nagasaki T, et al.	細胞生物学部	Prevention of anastomotic stenosis for decellularized vascular grafts using rapamycin-loaded boronic acid-based hydrogels mimicking the perivascular tissue function	Biomaterials Advances. 2023 Apr; 147: 213324	Original Article
95	Mahara A, Shima K, Soni R, et al.	細胞生物学部	In vivo MR imaging for tumor-associated initial neovascularization by supramolecular contrast agents	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces. 2023 Oct; 230: 113525	Original Article
96	Mahara A, Shirai M, Soni R, et al.	細胞生物学部	Vascular tissue reconstruction by monocyte subpopulations on small-diameter acellular grafts via integrin activation	Materials Today Bio. 2023 Dec; 23: 100847	Original Article
97	Miyoshi T, Matsuyama TA, Nakai M, et al.	研究振興部グラント獲得戦略室	Abnormal Microscopic Findings in the Placenta Correlate With the Severity of Fetal Heart Failure	Circulation Journal. 2023 Apr; 87: 560-568	Original Article
98	Nishii T, Kobayashi T, Saito T, et al.	放射線部	Deep Learning-based Post Hoc CT Denoising for the Coronary Perivascular Fat Attenuation Index	Academic Radiology. 2023 Nov; 30: 2505-2513	Original Article
99	Ogata S, Manson JE, Kang JH, et al.	予防医学・疫学情報部	Marine n-3 Fatty Acids and Prevention of Cardiovascular Disease: A Novel Analysis of the VITAL Trial Using Win Ratio and Hierarchical Composite Outcomes	Nutrients. 2023 Oct; 15: 4235	Original Article

100	Ohta Y, Tateishi E, Morita Y, et al.	放射線部	Optimization of null point in Look-Locker images for myocardial late gadolinium enhancement imaging using deep learning and a smartphone	European Radiology. 2023 Jul; 33: 4688-4697	Original Article
101	Ohuchi H, Mori A, Fujita A, et al.	小児循環器内科	Determinants and prognostic value of albuminuria in adult patients with congenital heart disease	American Heart Journal. 2023 Sep; 263: 15-25	Original Article
102	Ohuchi H, Mori A, Kurosaki K, et al.	小児循環器内科	Prevalence and clinical correlates and characteristics of "Super Fontan"	American Heart Journal. 2023 Sep; 263: 93-103	Original Article
103	Okada A, Kakuta T, Tadokoro N, et al.	心不全科	Transthyretin derived amyloid deposits in the atrium and the aortic valve: insights from multimodality evaluations and mid-term follow up	BMC Cardiovascular Disorders. 2023 Jun; 23: 281	Original Article
104	Seike Y, Masada K, Fukuda T, et al.	血管外科	Lower-profile stent graft reduces the risk of embolism during thoracic endovascular aortic repair in shaggy aorta	Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery. 2023 May; 36: ivad058	Original Article
105	Tsukiya T, Nishinaka T	人工臓器部	Numerical simulation of the leakage flow of the hydrodynamically levitated centrifugal blood pump for extracorporeal mechanical circulatory support systems	Journal of Artificial Organs. 2023 Sep; 26: 176-183	Original Article
106	Wada M, Inoue YY, Nakai M, et al.	不整脈科	Transvenous lead extraction versus surgical lead extraction or conservative treatment for cardiac implantable electronic device infections: Propensity score-weighted analyses of a nationwide claim-based database	Pacing and Clinical Electrophysiology. 2023 Aug; 46: 833-839	Original Article
107	Wada S, Iwanaga Y, Nakai M, et al.	情報利用促進部	Aortic valve and aortic root calcifications for predicting major adverse cardiovascular events: NADESICO study	Heart and Vessels. 2023 Apr; 38: 562-569	Original Article
108	Wada S, Iwanaga Y, Nakai M, et al.	情報利用促進部	Significance of coronary artery calcification for predicting major adverse cardiovascular events: results from the NADESICO study in Japan	Journal of Cardiology. 2023 Sep; 82: 172-178	Original Article

109	Yagyu T, Noguchi T, Asano Y, et al.	心臓血管内科部血管科	Association Between Genetic Diagnosis and Clinical Outcomes in Patients With Heritable Thoracic Aortic Disease	Journal of the American Heart Association. 2023 Apr; 12: e028625	Original Article
110	Yamashiro Y, Ramirez K, Nagayama K, et al.	先端医療技術開発部	Partial endothelial-to-mesenchymal transition mediated by HIF-induced CD45 in neointima formation upon carotid artery ligation	Cardiovascular Research. 2023 Jul; 119: 1606-1618	Original Article
111	Yokota C, Tanaka K, Omae K, et al.	脳血管リハビリテーション科	Effect of cyborg-type robot Hybrid Assistive Limb on patients with severe walking disability in acute stroke: A randomized controlled study	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2023 Apr; 32: 107020	Original Article
112	Seike Y, Yokawa K, Koizumi S, et al.	血管外科	The open-first strategy is acceptable for ruptured abdominal aortic aneurysm even in the endovascular era	Surgery Today. 2024 Feb; 54: 138-144	Original Article
113	Tsuda E	医療安全管理部	Long-term results of large common iliac artery aneurysms caused by Kawasaki disease in four patients	Cardiology in the Young. 2023 Sep; 33: 1686-1690	Original Article
114	Arafa A, Kashima R, Matsumoto C, et al.	健診部	Fatty Liver Index as a proxy for non-alcoholic fatty liver disease and the risk of stroke and coronary heart disease: The Suita Study	Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2024 Jan; 33: 107495	Original Article
115	Ishigami A, Toyoda K, Nakai M, et al.	脳血管内科部	Improvement of Functional Outcomes in Patients with Stroke who Received Alteplase for Over 15 Years: Japan Stroke Data Bank	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2024 Jan; 31: 90-99	Original Article
116	Arafa A, Kawachi H, Matsumoto C, et al.	健診部	The association between the estimated glomerular filtration rate and cognitive impairment: the Suita Study	Hypertension Research. 2024 Mar; 47: 672-676	Original Article
117	Shimamoto Y, Fukushima K, Mizuno T, et al.	薬剤部	Model-Informed Vancomycin Dosing Optimization to Address Delayed Renal Maturation in Infants and Young Children with Critical Congenital Heart Disease	Clinical Pharmacology & Therapeutics. 2024 Feb; 115: 239-247	Original Article
118	Toyoda K, Arakawa S, Ezura M, et al.	病院	Andexanet Alfa for the Reversal of Factor Xa Inhibitor Activity: Prespecified Subgroup Analysis of the ANNEXA-4 Study in Japan	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2024 Mar; 31: 201-213	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「倫理委員会の運営」、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年9回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 ○研究倫理審査委員会の審査申請手続き ○生命・医学系指針R 5年度改正と臨床研究倫理の要点	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

心臓血管内科部門プログラム 不整脈科、肺循環科、心不全科、冠疾患科、血管科、重症心不全・心臓移植、循環器救急
心臓血管外科部門プログラム
脳血管部門プログラム 脳血管内科・脳神経内科、脳神経外科
小児循環器科・産婦人科部門プログラム 小児循環器内科コース、産婦人科コース、小児心臓外科コース、新生児小児集中治療コース、成人先天性心疾患コース
生活習慣病部門プログラム 腎臓・高血圧内科、糖尿病・脂質代謝内科、健診部、予防医療部
中央支援部門・中央診療部門プログラム 心血管リハビリテーション科コース、精神神経科コース、病理コース、麻酔科コース、放射線コース、集中治療科（ICU）コース

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	124 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
野口 暉夫	心臓血管内科	副院長	36 年	
豊田 一則	脳血管・神経内科	副院長	37 年	
黒寄 健一	小児循環器内科	小児循環器内科部長	37 年	
福嶋 五月	心臓血管外科	心臓外科部長	27 年	
市川 肇	小児心臓外科	小児心臓外科部長	40 年	
片岡 大治	脳神経外科	脳神経外科部長	30 年	
吉原 史樹	腎臓・高血圧内科	腎臓・高血圧内科部長	35 年	
細田 公則	糖尿病・脂質代謝内科	糖尿病・脂質代謝内科部長	40 年	
吉松 淳	産婦人科	産婦人科部長	37 年	
福田 哲也	放射線科	放射線部長	29 年	
大西 佳彦	麻酔科	副院長	41 年	
畠山 金太	病理診断科 精神神経科	病理部長	34 年 年	

	呼吸器内科			研修プログラム無し
	整形外科			
	皮膚科			
	泌尿器科			
	眼科			
	耳鼻咽喉科			
	歯科			

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：①薬剤師レジデントコース、②臨床検査技師レジデントコース・研修の期間・実施回数：①薬剤2年間、②臨床検査3年間・研修の参加人数：①薬剤4人、②臨床検査3人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 (医師)レジデント・循環器病専門修練医研修プログラム、専門研修プログラム (看護師)①大阪府病院協会看護職員実務者研修、②心不全看護セミナー、③循環器病診療に従事する看護師の研修、④脳卒中看護セミナー、⑤高度急性期循環器看護シミュレーションセミナー(ANS) (コメディカル)①心臓リハビリテーション指導士研修、②透析療法従事者研修(看護師)、③CT検査実習技能研修(放射線技師)、④核医学検査実習技能研修(放射線技師)、⑤MRI研修実地研修(放射線技師)、⑥心エコーブラッシュアップ研修(臨床検査技師)・研修の期間・実施回数 (医師)令和5年4月1日～令和6年3月31日 (看護師)①令和5年10月3日～10月6日、②令和6年2月29日、③令和6年2月7日～2月9日、④令和6年2月1日、⑤令和5年6月30日、8月25日、10月24日、12月26日(計4回) (コメディカル)①令和5年9月25日～9月29日、令和5年10月16日～10月20日、令和5年10月23日～10月

27日、令和5年11月27日～12月1日、令和5年12月11日～12月15日、令和6年1月15日～1月19日、令和6年1月29日～2月2日、②令和5年10月19・20日、③令和5年11月13・14日、④令和5年7月10・11日、7月24日、⑤令和5年8月18日、8月25日、⑥令和5年12月13日～12月15日、令和6年1月31日～2月2日

・研修の参加人数

(医師)124人

(看護師)①34人、②121人、③76人、④114人、⑤90人

(コメディカル)①9人、②1人、③2人、④5人、⑤3人、⑥2人

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 飯原弘二
管理担当者氏名	総務課長：武智昭弘、医事管理室長：龍田隆寛、医療情報部長：平松治彦、 薬剤部長：畝佳子

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規 則 第 二 十 一 条 の 三 第 二 項 に 掲 げ る 事 項	病院日誌	医事管理室
		各科診療日誌	各診療科、看護部
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医療情報部
		看護記録	医療情報部
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	医療情報部
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
			平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。なお、電子カルテ導入以前の紙カルテ・X線フィルム等については、全量廃棄しており現存していない。診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規 則 第 二 十 一 条 の 三 第 三 項 に 掲 げ る 事 項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事管理室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究医療課
		高度の医療の研修の実績	研究医療課
		閲覧実績	情報統括部
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事管理室
	掲 げ る 事 項 第 一 条 の 十 一 第 一 項 に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事管理室 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室
			紙媒体及びデータにて各課で保存
			紙媒体及びデータにて各課で保存

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策室	紙媒体及びデータにて各課で保存
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理室	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	研究医療課
		監査委員会の設置状況	医事管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	情報統括部長:平松治彦
閲覧担当者氏名	総務課長:武智昭弘、医事管理室長:龍田隆寛 診療情報管理室長:上田郁奈代
閲覧の求めに応じる場所	・診療録等開示閲覧室 ・総務課
閲覧の手続の概要 円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用 ①開示申請者から所定の申請書提出 ②申請書を受けて開示・不開示の決定 ③申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付 ④当該文書等の閲覧	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. 医療安全管理指針</p> <p>第1章 基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨 2. 医療安全の基本的考え方 3. 医療に係る安全管理のための委員会・組織等に対する基本的事項 4. 患者からの相談への対応に関する基本方針 5. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 6. センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 7. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 8. 医療に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 9. その他医療の安全の確保のための基本方針 <p>第2章 医療安全管理の具体的内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全推進の原則 2. 医療安全管理体制、推進活動 3. 用語の定義 4. 院内危機管理体制・対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 直ちに口頭第一報を要する事案 2) インシデント・医療事故等の報告、分析、改善、情報共有 3) 重症回診及び医療事故発生時の対応 4) 緊急報告事案 5) 医療事故発生時の対応で留意する事項 6) 職員への周知 5. 教育研修 6. 患者家族からの相談時の対応 7. その他医療安全推進活動 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 医療安全管理指針の制定、改訂に関すること 二 医療安全管理に関する職員への教育・研修に関すること 三 医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること 四 医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること 五 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること 六 医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関すること 七 医療安全上の訴訟に関すること 八 診療に関する患者・家族からの意見、要望等に関すること 九 その他医療安全管理に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <p>【全職員対象 医療安全管理講習会】</p> <p>・R5年度 第1回：e-ラーニング 2023年5月22日～6月30日</p> <p>演題：現代医療における医療メディエーションの意義</p> <p>講師：松下記念病院 名誉院長 山根 哲郎 先生</p>	

・R5年度 第2回：e-ラーニング 2023年12月27日～2024年2月16日
内容：医療安全とヒューマンエラー
講師：自治医科大学名誉教授 安全推進研究所 河野 龍太郎 先生

【新採用者（中途採用者）】
・採用者オリエンテーション

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有 ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

病院長は、医療安全の推進に資するようインシデント・医療事故等の報告を促進するための体制を整備する。これら報告の目的は、①事故等の情報を把握し、適切な対応を行う、②原因を究明・分析・対応策を検討する、③病院システムの改善を行い医療安全に役立てる、ことである。報告した者に対して報告したことを理由に不利益処分をおこなうものではない。インシデント報告は1年間、医療事故報告書は5年間医療安全管理室に保管する。インシデント・医療事故等は、医療安全管理室に報告すると共に、重大な事例の場合は、院内で定めた報告ルートに基づき、速やかに病院長に報告する。

インシデント・医療事故等の報告を受けた医療安全管理室は、定められた手順に基づき、事例の収集・分析を行う。報告事例は、原因・要因及び対応・対策について医療安全管理に係る委員会や会議等で検討し、システム志向の再発防止策を立案する。医療安全管理室は、関係各部門との連携協力のもと、その実施状況と効果を評価する。医療安全管理委員会で決定した再発防止対策は、診療管理連絡会議や医療安全に係る委員会・その他関連会議、院内メール等で、職員に伝達し共有を図る。各職員への周知の確認は、所属長及び医療安全推進担当者が責任を持って行う。

その他、多職種M&Mカンファレンス（R5年8月開催）も開催した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>①院内感染対策に関する基本的考え方 ②院内感染管理体制 ③職員研修 ④感染症の発生状況の報告 ⑤院内感染発生時の対応 ⑥患者への情報提供と説明 ⑦抗菌薬適正使用の推進 ⑧感染対策に関する地域連携への取り組み ⑨その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下の事項について審議、決定する。 ①院内感染症の調査、予防対策の立案 ②予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③職員の教育指導 ④院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤その他委員長が必要と認める事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【全職員対象】 令和5年度前期 演題：コロナ時代の病院内感染対策と抗菌薬適正使用 講師：大阪大学大学院医学系研究科 感染制御医学 教授 忽那 賢志 先生</p> <p>【全職員対象】 令和5年度後期 テーマ：抗菌薬の適正使用 講師：感染対策室室長 佐田 誠 テーマ：冬の感染症 講師：感染管理認定看護師 白谷 桂</p> <p>【新採用者（中途採用者）】 ・ 採用者オリエンテーション ・ 新人研修</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>菌検出状況やサーベイランスの結果については、感染対策委員会内で定期報告を行い、情報共有している。 アウトブレイクを疑う場合には、感染対策室は情報収集・状況確認等を行ったのち、必要に応じて感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を適宜院長に報告する。</p> <p>感染対策リンクナース会、リンクドクター会、リンクメディカル会を発足し、適宜注意喚起等を行いながら、全部門で感染対策推進に取り組んでいる。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p> 医薬品の安全使用について 医薬品におけるリスクマネジメント 医薬品副作用被害救済制度について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p> 1 医薬品の採用 2 医薬品の購入 3 調剤室における医薬品の管理 4 病棟・各部門への医薬品の供給 5 外来患者への医薬品使用 6 病棟における医薬品の管理 7 入院患者への医薬品使用 8 医薬品情報の収集・管理・提供 9 手術・麻酔部門 10 集中治療室 (ICU・NCU) 11 輸血・血液管理部門 12 生命維持管理装置領域 13 臨床検査部門、画像診断部門 14 歯科領域 15 他施設との連携 16 在宅患者への医薬品使用 17 放射性医薬品 18 院内製剤 19 重大な有害事象の予防・対応 20 事故発生時の対応 21 教育・研修 22 医薬品関連の情報システムの利用</p> <p> 医薬品安全管理責任者は手順書に従った業務遂行について確認し、行われていない場合は改善を指導、また、必要に応じて手順の改定を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p> ・ 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集</p> <p> ・ 随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信、さらに内容によって全医師あてにメール配信、医療安全推進担当者会議、医療安全管理委員会で周知</p> <p> ・ 重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知</p> <p> ・ 必要に応じてシステムや手順の変更を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 70 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 体外式除細動器、医療ガス、人工呼吸器、人工心肺装置、補助循環装置、植え込み型補助人工腎臓、血液浄化装置、閉鎖式保育器、診療用粒子線照射装置、診療用放射線照射装置、体外式ペースメーカー並びに新規導入機器等について、院内全職員を対象とした研修会のほか、新規採用職員及び中途採用職員を対象とした研修会を開催している。 なお、研修の実施に際しては、実機を使用したハンズオンセミナーとするほか、複数日において研修会を開催して職員の参加の便宜を図るとともに、後日にe-Learningでの受講も可能とするなど、多数の職員が参加できるよう工夫している。 	
② 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。 また、各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。 ○日常点検（始業時点検・使用中点検・終業時点検） ○定期点検（電氣的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等交換等） ○故障時点検（定期点検に準じた点検を行い、故障箇所を特定する） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAによる医療機器等安全性情報をはじめとして、メーカー及び販売業者からの提供情報、インターネットによる情報検索等を随時実施している。 収集した医療機器の安全使用関連情報については、医療安全管理委員会等で資料を配付し、その後に各職場で伝達され、院内職員への周知を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理担当副院長（医師）を医療安全管理責任者として配置している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信 さらに内容によって医師あてにメール配信、 医療安全推進担当者会議および医療安全管理委員会で周知、 医療安全推進担当者会議は伝達確認票にて各部署への伝達を確認している ・重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知を行い、 伝達確認票に押印し、伝達状況を確認している <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用についての申請を受け、医薬品安全管理責任者が室員である新規医療評価室にて委員会を開催し申請内容を議論し、さらに病院倫理委員会に意見を求め、使用の可否の決定を行っている。また、病棟薬剤業務にて薬剤師が把握したものは、処方の必要性、論文等の根拠に基づくリスクの検討の有無、処方の妥当性等を必要に応じて医師に確認し、医薬品安全管理責任者に報告する。医薬品安全管理責任者は必要に応じて医師に指導等を行い、院内に必要な情報の共有等を行う。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <p>：説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について監査結果を委員会にて報告</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <p style="padding-left: 20px;">診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報統括部長に報告している</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（ 3 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 3 ）名 <li style="padding-left: 20px;">うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 <li style="padding-left: 20px;">うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 <li style="padding-left: 20px;">うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ ）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること ・ 医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること ・ 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること ・ 重大な医療事故等の発生等委員長が必要と判断した場合は、適宜開催できるものとする ・ 月に1回開催する医療安全推進担当者会議の重要伝達内容、インシデント・アクシデント報告、注意喚起、医薬品安全管理・医療機器安全管理・放射線安全管理・臨床検査等に関する報告・連絡事項などを、各診療科・各部門リスクマネージャーから各部署の従事者全員に周知している <p style="padding-left: 20px;">会議内容等は、各リスクマネージャーが自部署の職員へ伝達するだけでなく、院内ポータルサイトに会議資料を掲載し、全職員が閲覧できるようにし、更なる周知を図っている</p> <p style="padding-left: 20px;">各リスクマネージャーは、電子媒体において伝達報告書に伝達終了日を記載、署名し、医療</p> 	

安全管理室へ提出している

- ・診療モニタリングについては、毎年1月～12月の1年間のデータを取りまとめ、ホームページ上に掲載している
- ・全職員を対象とした医療安全講習会を年間2回以上開催し、受講状況を確認している。
R2年度からは、COVID-19感染防止対策より、eラーニングで①講義を視聴②小テスト③アンケートのすべてを行い終了とし実施している
- ・R3年10月より、院内急変時迅速対応システム（Rapid Response System：RRS）を構築、稼働している

医療安全担当副院長、医療安全管理部長、医療安全管理者（GRM）がオブザーバー

として役割遂行しており、医療安全管理室がバックアップ機関として運用、稼働している

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
継続課題1件（特定臨床研究）について変更届及び実施状況を確認し、委員会及び病院長に報告した。また、継続課題1件（診療）について退院時要約・手術記録及び有害事象報告を確認し、病院倫理委員会及び病院長に報告した。さらに、診療科における遵守状況の確認を行い、申請外の実施がないことを確認し、委員会及び病院長に報告した。医用材料委員会後に月例で会議を開催することも継続した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

診療科における遵守状況の確認を行い、該当するものがないことを確認し、委員会及び病院長に報告した。また、月例で薬事委員会後に会議を開催することを継続した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 202 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 0 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

重症回診の対象：①近日中に死亡に至る可能性が高い入院患者。②当院搬送後、24 時間以内に死亡する可能性の高い患者。③診療実施の上で倫理的な問題がある場合。

重症回診の実施：対象患者の主治医又は担当医は重症回診を依頼し、チームとして組織されたメンバー（医療安全管理担当副院長をはじめとする各部門長、部門長が指名する部長、医療安全管理部長・室長・GRM・副看護師長）により、経過における方針や説明・記録内容を検討し、助言・勧告する。また必要に応じて、死亡時における調査機構や警察への届出を検討する。

重症回診実施患者が死亡した場合：病棟医長、主治医あるいは担当医から速やかに電子カルテの死亡報告書を記載し、医療安全管理室に報告する。

重症回診未実施または急な院内死亡の場合：平日時間内は病棟医長、主治医或いは担当医から速やかに医療安全管理担当副院長に報告する。時間外においては担当診療科部長へ報告し、必要に応じて医療安全管理担当副院長にも報告する。電子カルテの重症回診未実施死亡患者シートに記載し、医療安全管理室に報告する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：川崎医科大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：川崎医科大学附属病院）・無）

・ 技術的助言の実施状況

- ・ 事前に自己評価表作成、自己評価に対する確認事項・質問事項表を作成し、開催開始までに相手先へ送付。
- ・ 自己評価者：医療安全管理者（GRM）・医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者・
医事専門職（医療安全担当）
- ・ 近畿大学病院によるプレゼンテーション、自己評価表に基づく質疑応答
- ・ 国立循環器病研究センターによるプレゼンテーション、自己評価表に基づく質疑応答
- ・ 技術的指導、指摘事項：特になし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

患者相談窓口（相談室 2）を設置して対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

2023 年 4 月 4 日（月） 講師：医療安全管理者（GRM）

新採用者研修（医師、看護職員、技師（士）、事務職員）

研修内容：1. 医療安全管理全般、2. 医薬品安全管理、3. 医療機器安全管理、4. 放射線安全管理

◎ 医療安全管理全般：

1. 国立循環器病研究センター（NCVC）における医療安全管理体制
 - ・ 2022 年度診療実績（抜粋）・NCVC における医療安全の基本的な考え方
 - ・ 2023 年度 部署目標 ・ 病院組織
2. 日本の医療安全の歴史
3. 医療安全管理体制
 - ・ 医療法第 6 条の 12 ・ 医療法施行規則第 1 条の 11 ・ NCVC 職員研修
 - ・ 特定機能病院：医療安全管理に関する承認要件見直しの概要
4. 医療安全管理に係る取り組み
 - ・ 医療事故調査制度 ・ 医療安全支援センター ・ 医療安全に関する診療報酬制度
 - ・ その他（医療安全推進週間、世界患者安全の日）

5. 当院の医療安全管理体制

- ・ 特定機能病院の医療安全管理体制 ・ NCVC 医療安全管理体制図
- ・ 医療安全管理室 主な活動 ・ インシデント・アクシデント報告、報告経路
- ・ 再発防止策（誤薬、転倒転落、誤認防止など）、院内事例検討会の状況
- ・ NCVC 版 Rapid Response System : RRS
- ・ 特定機能病院に求められていること（ガバナンスの強化、現場における改善・再評価）
- ・ 内部通報窓口制度 ・ 特定機能病院間医療安全相互ラウンド
- ・ 監査委員会による外部監査

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- ・ 日本医療機能評価機構が開催する研修を受講

管理者（院長）： 2024年2月6日 特定機能病院管理者研修

医療安全管理責任者（担当副院長）： 2024年2月26日 特定機能病院管理者研修

医薬品安全管理責任者： 2024年1月15日 特定機能病院管理者研修

医療機器安全管理責任者： 2024年1月15日 特定機能病院管理者研修

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2022年6月30日～7月2日に、日本医療機能評価機構の病院機能評価「一般病院3」
<3rdG:Ver. 2.0>を受審した

2024年10月28日～10月30日 日本医療機能評価機構「一般病院3」<3rdG:Ver. 3.0>
受審予定

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

評価の結果については、病院のホームページで公表している

・評価を踏まえ講じた措置

改善要望事項について該当事項はなかった

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 日本国の医師免許を有していること 2 当センター病院又はセンター病院以外の病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験及び医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること <ul style="list-style-type: none"> ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 ウ 医療安全管理部門における業務 エ その他上記に準ずる業務 3 センター病院又はセンター病院以外の病院において、病院長又は副院長及びそれらに準ずる職のいずれかでの組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること 4 センター病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢及び指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ホームページにて公表 <p>(https://www.ncvc.go.jp/about/overview/jyohokokai/byouinchousenkou/)</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
				有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
				有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
				有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 名称：執行役員会 理事会で決定した重要事項を遂行するため、センターの所掌事務に関する事項の企画及び立案並びに調整に関する事務を総括整理するとともに、理事会の任務を補佐するため、センターの運営の方針、計画、予算及び決算その他のセンターの運営に関する重要な事項について審議する。 ・審議の概要の従業者への周知状況 各部署の部長等会議により、執行役員会での審議事項を報告し、各部署へ周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 非常勤監事2名（公認会計士及び弁護士）がオブザーバー参加し、意見を述べている。 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
大津 欣也	○	医師	理事長
山本 晴子		医師	理事・データサイエンス部長
望月 直樹		医師	研究所長
北波 孝		事務	企画戦略局長・企画経営部長
飯原 弘二		医師	病院長
野口 輝夫		医師	副院長
豊田 一則		医師	副院長
草野 研吾		医師	副院長
松田 均		医師	副院長
中岡 良和		医師	副院長
宮本 恵宏		医師	オープンイノベーションセンター長
三原 健司		医師	副オープンイノベーションセンター長
河田 晃伸		事務	総務部長・人事部長
日巻 義徳		事務	財務経理部長
平松 治彦		事務	情報統括部長
木村 尚巧		弁護士	コンプライアンス室長
畝 佳子		薬剤師	薬剤部長
坂口 幸子		看護師	看護部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

組織規程において、「院長は、病院の事務を掌理する。」としている。
また、人事委員会規程（管理者が副委員長）において「特定機能病院としての機能を確保するために病院長が必要と認めた人事に関する事」を委員会での審議事項としている。
更に、理事会規程において「理事会において、国立循環器病研究センター病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。理事会は、その意見について十分審議した上で決定しなければならない。」としている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

組織規程において、「副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する」と規定している。
副院長の役割として「診療担当」「教育担当」「経営担当」「研究担当」「安全担当」の5つとし、他に病院運営に重要な課題が発生した場合等には、特命事項に関する事務を総括整理する「特命副院長」を任命できることとしている。
また、総務部をはじめ、人事部、財務経理部、企画経営部並びに医事管理部等の事務部門においても、管理者を積極的にサポートする体制を構築している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

国立病院機構、厚生労働省との人事交流により、病院の管理運営に精通する人材の確保に努めているほか、積極的に民間登用を行っている。また、病院長や副院長等が、管理者の外部研修として「トップマネジメント研修」等を随時受講するなどしている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	①・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理室の活動報告、インシデント・アクシデント等事例検討の報告、医薬品安全管理、医療機器安全管理、訴訟案件、患者相談に関すること等に係る報告と意見交換等</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（①・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（①・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（①・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（①・無）</p> <p>・ 公表の方法： ホームページにて公表 (https://www.ncvc.go.jp/about/overview/jyohokokai/medical_safety/)</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
後 信	九州大学病院		医療安全管理に関する識見を有する者	有・①	1
岡田 健次	神戸大学	○	医療安全管理に関する識見を有する者	有・①	1
國子 克雄	心を守る会（患者代表）		医療を受ける者の代表	有・①	2
西村 邦宏	国立循環器病研究センター 予防医学・疫学情報部長		医療安全部外の立場から監査	①・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

コンプライアンス推進規程を整備し、管理者を含む役職員が全ての法令等を遵守し、社会規範を尊重するとともに、当院の業務活動が高い倫理性を持って行われることを確保するためのコンプライアンスの推進に必要な事項を定めている。

また、年に一度、監査室が内部監査（書面及び実地監査）を実施し、監査結果については理事長に報告し、コンプライアンス室、執行役員会・理事会にも併せて報告している。

併せて、コンプライアンス室においては、2ヶ月に1回、コンプライアンス委員会を開催し、コンプライアンスのより一層の推進に努めている。

- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 当院の理事会において審議する事項として、業務方法書、中期計画・年度計画に関する事項、財務諸表・決算報告書及び事業報告書に関する事項等に加え、特定機能病院の業務に関する事項についても審議することとして理事会規程に定めている。 また、同規程において「病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、特定機能病院の業務に関する事項その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。」と規定し、原則として毎回出席している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）（ 年 12 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">・ 職員一斉メール・ 電子カルテ掲示板に掲載・ 外来デジタルサイネージに掲載・ 職員向けホームページに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。</p> <p>定期的に、市民公開講座や地域の医療機関の医師を対象とした講演会を開催し、循環器疾患にかかる情報提供・啓蒙活動を実施している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。</p>	